

平成26年度 SPring-8ユーザー協同体 第1回評議員会議事録

日時：平成26年4月21日（月）13時30分～15時45分

場所：SPring-8中央管理棟 上坪講堂

出席者：朝倉清高（テレビ会議）、雨宮慶幸（会長）、石井孝浩、上田和浩、川添真幸、坂田修身、櫻井吉晴、堂前和彦、松井純爾、水木純一郎、渡邊信久、今泉公夫、岡島敏浩、金谷利治、上村みどり（テレビ会議）、辛埴、大門寛、高原淳、巽修平、月原富武、中川敦史（利用委員長）、野間敬、渡辺義夫

幹事／西堀英治、高尾正敏、佐藤衛、杉本宏、原田慈久、久保田佳基、佐々木園、籠島靖
オブザーバー／野田健治、高田昌樹、生越満、木下豊彦、鈴木昌世、八木克仁
事務局／坂川琢磨

1. 会長挨拶

議事に先立ち、雨宮会長より挨拶があった。

2. 平成26年度評議員紹介

平成26年度より就任した評議員が紹介された。

報告事項

3. 平成25年度SPRUC活動報告

3.1 拡大研究会・SPring-8利用ワークショップ報告

2月1日、2日に開催された拡大研究会・SPring-8利用ワークショップには250名弱の参加者があり、全体会合の後、4つの分野に分かれて議論がされた。詳細は利用者情報に掲載されている旨紹介があった。

3.2 SPRUC第2期研究会申請状況

- ・SPRUC研究会は第2期に入り、すべての研究会が改めて申請し直す。
- ・研究会とBLが縦横のマトリックス構造をとり、研究会がどのBLをカバーしているか関係がわかるようにしている。
- ・第1期研究会から2件が廃止となり、新規申請が5件ある。どこの研究会にも関連付けられていないBLがあるが、それらは、加速器診断、LEPなどである。多くの会員を有していた研究会が廃止するが、それらの会員は別の研究会に入るなどで対応している。

3.3 SPRUC企画委員会作業部会報告

資料に基づき3つの企画委員会作業部会について説明があり、以下のような意見交換がなされた。

3.3.1 放射光科学将来ビジョン作業部会

- ・放射光科学将来ビジョン白書の取り纏めは、SPring-8の次期計画を策定するにあたり、世界の動向を視野に入れ、国内の施設も含めてSPring-8の位置付けを客観的に考えることを目的としている。
- ・1月の放射光科学合同シンポジウムの後、施設側や行政とも議論を交わし、何回かのフィードバックを経て、4月1日に中間報告として取り纏めた。この白書はJASRI、理研に提出され、また、放射光学会を通して行政にも提出される予定である。
- ・今後、より具体的な高度化の内容について、SPRUCと施設側が活発に議論できるように進めていく必要がある。
- ・この白書がSPRUCの意見として出て行くならば、報告事項ではなく、評議員で審議した上で出した方がよいのではないかとの意見があったが、この場で作業部会と同様な議論をすることは避け、意見がある場合は4月中を目途に連絡いただくこととした。
- ・白書の取り扱いについて質問があった。作業部会では1年で最終報告する予定でパブリックコメントを受けたが、継続して議論していく必要があるため、1年経った現段階で中間報告として提出する方針である旨説明がなされた。

3.3.2 大学院連合検討作業部会

- ・2013年11月に設置が承認され、2014年4月7日に第1回作業部会が開かれた。
- ・大学院連合はSPRUCで大学院を作るわけではなく、現在進行中の大学院教育プログラムのうち共通部分をうまく連携させて教育プログラムを作るという主旨である。
- ・作業部会ではまず始めに大学院連合のイメージを共有化するためにそれぞれの大学院教育プログラムについての情報を持ち寄り議論した。一番の問題は実習のための時間をどのように確保するかである。また、大学院のカリキュラム同士のスケジュールの関係も考慮する必要がある。

3.3.3 研究会組織検討作業部会

- ・4月8日に第2回会合が開かれた。
- ・一番大きな議論は、時限付分野融合型研究グループとしてどのようなグループを設定するかであり、4つの研究分野とは別に、量子デバイス科学、原子分子生命科学、分子機能

性材料、実用の4グループが提案された。そして、研究会組織顧問を置き、プログラムオフィサーと代表者、作業部会委員で執行部との意識の共有を図る。

- ・新しい利用委員会は、委員長、副委員長、研究会組織顧問、分野代表、分野融合型グループ代表らで構成される。

- ・研究会の分野融合型研究グループへの参加について質問があった。分野融合型研究グループは分野を絞った形で提案されていて、それに適合する一部の研究会が参加して活動する。

- ・分野融合型研究グループの目的が何であるか、活動内容がよく見えないとの意見があり、SPring-8の高度化に合わせた新しいサイエンスの展開を図るためのものである旨回答があった。顧問やプログラムオフィサーは重点を置く研究分野の提案を行い、分野融合型研究グループは動向調査のうち高度化と次期計画に対する要望をまとめてもらう、すなわち、たくさんの様々な要望の中から分野を絞り、SPRUCの意見として年度ごとに提案することを考えている。

- ・ボトムアップで作られる研究会だけでは施設に対するSPRUCの役割として不十分であり、トップダウンの部分も必要と考えられる。そのため、放射光を利用していない他分野の有識者の意見も取り入れながら進めていきたい。

3.4 平成25年度決算

資料に基づき、平成25年度収支決算について説明があった。一般会計と動向等調査実施会計はそれぞれ用途が異なること、また、会費収入はなく、利用懇練越金および協定分担金を主とする一般会計と、JASRIより依頼された動向調査の対価としての調査費が資金源となっていることが説明された。

審議事項

4. SPRUC第2期研究会について

- ・申請内容については利用委員会、利用委員長が確認しているが、新規申請の研究会だけでなくすべての研究会について資料を提示する必要があるとの意見があり、後日、評議員が閲覧できるようにすることとなった。

- ・SPring-8シンポジウムでは各研究会がポスター発表しているので、評議員には活動内容等をチェックしていただきたい旨要請があった。

- ・議論の後、申請されているすべての研究会の設置が承認された。

5. SPring-8シンポジウム2014の開催について (含むSPRUC 2014 Young Scientist Award)

- ・資料に基づき、SPring-8シンポジウム2014の開催およびSPRUC 2014 Young Scientist Award (YSA)について説明があった。YSAについては、産業界からの応募を促進したい旨説明があり、以下のような意見があった。

- ・企業からの応募では、企業のグループが見える形でその代表として若手を推薦いただくのが良いのではないかと、そしてそのようなコンセンサスが評議員会で得られると良い。

- ・今後、産業界に対してのYSAあるいは趣旨の合った別のAwardを設けることも意見として挙げた。一方で、Awardの種類を増すことなく今の枠組みで産業からも応募いただけるようにした方が良い。

- ・グループの代表が若手を育成するという観点を持っていただけるようにすることが望ましい。

- ・企業から若手を推薦する場合は、受賞候補者推薦承諾書のようなオーソライズされたものを提出いただく方法もある。

- ・議論の後、シンポジウム開催ならびにYSA実施の素案が承認された。

6. 平成26年度予算について

資料に基づき、平成26年度予算について説明があった。

- ・分野融合型研究グループの活動費として各100万円が想定されている。

- ・個別の研究会に対してサポート額がわからないと活動しにくいとの意見があったが、従来と同様の研究会の活動費は一般会計から支出すると回答があった。

7. 平成26-27年度会長の互選

互選により高原評議員が会長に推薦され、承認された。その後、高原新会長から挨拶があった。

そして、最後に、任期を終える雨宮会長より挨拶があった。

配付資料：

資料1：平成26年度評議員名簿

資料2：平成25年第3回評議員会議事録案

資料3：拡大研究会・SPring-8利用ワークショップ報告

資料4：SPRUC第2期研究会申請状況

資料5：放射光科学将来ビジョン作業部会 白書（中間報告）

資料6：第一回SPRUC大学院連合作業部会 開催報告

資料7：SPRUC研究会組織検討作業部会活動報告

資料8：平成25年度決算

資料9：SPring-8シンポジウム2014の開催について

資料10：平成26年度予算案

以 上